

「健康なくに」

評者：嶋村 清志 全国いきいき公衆衛生の会代表(滋賀県長浜保健所長)

日本の健康づくりが目指す姿を示しつつ、それに近づくためのヒントが書かれた待望の書、『健康なくに』が出版されました。健康づくりの主役となる方やその支援者の方々に読んで頂こうと書かれた本書は、専門職だけでなく、住民の方々にこそ読んで頂きたいと思います。「健康な人」をつくるためには「健康な地域」、「健康なくに」づくりが不可欠というメッセージが、この本には込められています。

住民主体の健康なまちづくりを地域で具体的に実践されている健康サポーターの会の会長さんにはじまり、大学教授や保健所関係者だけでなく、市町村の保健師さんなど、幅広い職種の、全国の名だたる方々が分担執筆されています。

この本には住民から学ぼうとする謙虚さと、住民を愛する心があります。住民の力に目を向け、一緒に高め、感謝することの大切さにきっと気づかされると思います。「我以外皆我師」が如く、「住民から学ぶこと」、「人は人から学ぶもの」であるという姿勢が、地域づくりにつながっていることを再認識できます。住民は与えられるだけの存在ではありません。「住民主体」こそ地域づくり、地域展開の原動力となるのです。

その一方で、「公衆衛生とは何か」、「格差社会における公衆衛生」、「医療崩壊」といった現代の社会病理にも踏み込んだ内容もあり、大変興味深い編纂となっています。

公益社団法人地域医療振興協会
ヘルスプロモーション研究センター(編)、医療文化社、1,900円
+税、B5版、2010



す。また、「公衆衛生を推し進める理論、理念、方法論に学ぶ」章もあり、「ハイリスクアプローチとポピュレーションアプローチの再確認」で基本的な考え方を踏まえつつ、MIDORIモデルやアセットモデル、ソーシャルキャピタルについてもわかりやすく学ぶことができます。

この本の最大の特長は、随所に全国各地の優秀な事例や、自らの活動を振り返るための考え方が紹介されていることです。子どもの虐待を「地域力」で予防、特定健診・特定保健指導を追い風にする、タバコ対策に学ぶ、防災活動から健康なまちづくりへ展開する考え方などが紹介されています。それらの事例や考え方に学び、地域を「みる」「つなぐ」「動かす」という底力を身につけたいものです。

本書はいわゆる「How to本」ではなく、「健康なくに」をめざして、住民とともに「健康なくに」をつくり上げるためのヒントがぎっしり詰まった教材です。是非、この本を手にとって頂き、「夢」を持ちつつ、「健康なくに」づくりへの第一歩を踏み出して頂きたいと思います。